

組合だより

【 第360号 令和6年6月 日本羊腸輸入組合 】

5月の総会・理事会

○ 5月29日(水)、第61回通常総会、令和6年度第1回理事会が開催されました。審議結果等は以下のとおりです。

なお、松永理事長の総会開催挨拶は、【参考情報・お知らせ】欄に掲載しております。

1. 出席者内訳

組合員ご本人様のご出席	9社
代理でのご出席	3社
委任状によるご出席	2社
議決権行使による御出席	4社
計	18社 (3社未回答)

2. 議案審議の結果

上程された議案の全議案が、原案どおり可決承認されました。

3. 令和6～7年度役員

役員選挙結果を踏まえ開催された第1回理事会において、定款第37条第1項に規定する専務理事が選任されました。

この結果、令和6年度、7年度の役員は次のとおりです。(敬称略)

理事長 : 松永大介

副理事長: 関 道康、角一健二郎

専務理事: 山村直弘

理事 : 尾上康浩、佐藤和統、森嶋隆仁

監事 : 遠藤 久、新宅久夫

また、通常総会後に開催されました懇親会には、ご多忙中にも関わらず、経済産業省をはじめ組合員、賛助会員等沢山の皆様にご参加いただき、懇親を深めることができました。ありがとうございました。

5月の事務局活動

○組合員関連

- ・事前配布された通常総会提出議案に関して、組合員からの御質問にお答えしました。
- ・天然腸輸入報告統計協力13社に対し、令和6年4月分の結果報告と令和6年5月分の報告依頼を行いました。

○関係省庁・団体関連

- ・経済産業省農水産室を訪問し、第61回通常総会提出議案について内容説明を行いました。

○その他

- ・第61回通常総会の会場となるホテルマイステイズ五反田駅前との通常総会開催の最終確認を行いました。

統計 *統計の詳細は組合ホームページで御確認下さい。

【財務省貿易統計】

令和6年4月の天然ケーシング輸入量は、次のとおりです。

- ・総輸入量 366.1t (前月比+140.9t、162.6%/前年同月比+47.2t、114.8%)
- ・中国原産 233.7t (// + 56.9t、132.3%/ // Δ23.6t、90.8%)
- ・豪州原産 51.3t (// + 30.2t、242.8%/ // +28.9t、228.8%)
- ・NZ原産 60.1t (// + 32.5t、217.9%/ // +24.2t、167.4%)

【ソーセージ生産量(日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べ)】

令和6年4月のソーセージ生産量は、次のとおりです。

- ・ソーセージ類合計生産 : 27,061.3トン (前年同月比 : 100.1%)
- ・ウィンナーソーセージ : 20,105.7トン (// : 101.7%)
- ・フランクフルトソーセージ : 3,189.0トン (// : 88.0%)

参考情報・お知らせ

○松永大介理事長の第61回通常総会開催挨拶

本日はご多忙の中、日本羊腸輸入組第61回通常総会にご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。本総会開催にあたり一言ご挨拶させていただきます。

昨年5月にコロナ感染症が5類移行し、1年が過ぎました。インバウンド需要も加わり、国内の各産業は回復基調にあり、コロナ禍以前の状況に回復しつつあります。他方この数年で世界は大きく様変わりしたのも事実です。1990年以来、約30年ぶりの円安、輸入原材料、エネルギーコストの上昇は未だ企業経営を圧迫し、生活必需品の物価上昇に対し、個人収入が追いついていません。

特に労働人口の7割を占める中小企業では様々なコスト上昇要因を販売価格に転嫁することが遅れており、個人消費の低迷が心配されています。政府主導の「経済の好循環」には今少し時間がかかるようです。

さて本総会のご挨拶にあたり、当組合の関心事について3つお伝えさせていただきますたく存じます。

一つ目は

組合の長年の課題となっております、輸入可能国の拡大についてです。2000年前後に世界各国で発生した、いわゆる BSE に関連する問題において、当組合は長年にわたり関係省庁、各国 業界団体等と絶え間ないコミュニケーションを維持し、輸入可能国の拡大に尽力してまいりました。結果的に現在は11か国から天然羊腸を輸入できるまでになりました。また一大産出国である中国の認定施設は48箇所になっております。しかし、世界的な BSE リスクが解消されつつありながら、いまだ欧米ルート確立には至っておりません。ロシア/ウクライナ問題、中東諸国における情勢不安など、原料の輸入を100%輸入に頼る当業界においては、安定供給の観点から輸入可能国の拡大は急務であると考えます。今後も関係する皆様のご協力を賜りながら早期の実現を目指します。

二つ目は

サプライチェーンとしての責任についてです。

1963年に45社で発足した当組合は、様々な時代の流れを経て、今期は21社で取り組んで参ります。昨今の年間輸入量は概ね900万から1000万ハクスと安定しています。天然腸事業はサプライヤーとの信頼関係が品質にも影響するととも専門性の高い事業です。故に信頼構築には多大なる時間と費用を要するとともに、世界市場を流通する商品へのフェアトレードの精神が不可欠です。組合の定款第1条には「羊腸等の輸入取引の秩序を確立し、羊腸等の輸入貿易の健全な発展を図り、食肉加工業の発展に寄与することを目的とする」と書かれており、これまでも一貫して、食肉加工業界のサプライチェーンの一端を担う自負をもって取り組

んで参りました。今後も 安心、安全、安定を柱にその責任を遂行いたします。

三つ目は

持続可能な発展についてです。

設立当時からの企業では3世代目、現在の組合員企業の大半が2世代目へとバトンを渡されています。一方、建物設備の老朽化、人材の高齢化が顕著であり、お取引先様のビジョンを追従する為には、業界の健全な発展が急務と考えます。

この10年、デフレ下における過当競争は事業収益の悪化を招き、また近年の為替が象徴するような、世界との格差は中小企業である当組合員企業に大きな負担となっております。政府主導により2023年より日本経済団体連合会、日本商工会議所、経済同友会は合同で「サプライチェーンの共存共栄」を推進する目的で、下請け企業との望ましい取引慣行の順守など、取引適正化等を含む「パートナーシップ構築宣言」への参画が呼びかけられ、現在約47,000社が宣言をしています。

ハムソーメーカーをはじめ、私共も共に、こうした取り組みを推進していくことが「持続可能な発展」には肝要と考えます。皆様のご賛同をいただき、当組合もその責を担って参りたいと思います。

これらに加え、昨年創設した賛助会員の拡大や組合の共通利益増進のためのセミナー等、当組合の活動を一層推進し、食肉加工業界の持続発展に向けて皆様と共に取り組んで参りたいと存じます。どうぞご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

最後に、本日お集まりの皆様のお力添えをいただき本総会を成功させたいと存じます。あらためてご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げ、開会のご挨拶とさせていただきます。

今後の主な予定

○7月17日(水) 令和5年度第2回理事会

以上